

## 農林水産大臣賞（有機農業の部）

法人とJAとの連携による有機栽培ほ場の  
の団地化等に伴う有機米産地の確立

### 庄内産直ネットワーク

（代表：大瀧 慶一）

山形県鶴岡市

#### 主な取組

平成15年、有機栽培や有機JAS認定のノウハウがあり、消費者と強い結び付きを有する法人と、組織力があり、まとまった生産量を確保しやすいJAとで「庄内産直ネットワーク」を設立。

先進的な技術の導入などにより安定的な収量を確保するとともに、農薬の飛散リスクの低減や作業効率化によるコスト削減に資する有機栽培ほ場の団地化等を図り、面積、生産者数共に大きく伸ばし（H15：22ha、17戸→H25：61ha、31戸）有機米の産地を確立。

高品質な有機栽培米の生産により、生協との取引量が約8倍に拡大するとともに、高付加価値米として安定した販売により所得の向上に寄与し、後継者も数多く就農。

細かな消費者・生産者との交流（産地交流会等）の実施により、「顔の見える産地」としての責任の醸成、消費者との信頼が構築されるとともに、消費者の産地訪問により地域の活性化・賑わいの創出にも寄与。

## 農林水産大臣賞（環境保全型農業の部）

505戸のエコファーマーで取り組む  
環境負荷を低減する温室メロン栽培

### 静岡県温室農業協同組合

（代表理事・組合長：今村 芳信）

静岡県袋井市他7市2町

#### 主な取組

施設園芸において、組合員全員（8市2町、505名）がエコファーマー認定を取得しており、広範囲で多くの生産者が積極的に推進する環境負荷低減栽培の取組は、モデルケースとして、他の産地・品目など県下全体における環境保全型農業に対する意識の向上に貢献。

環境保全型農業（土壌・資材等の蒸気消毒、隔離床栽培、たい肥等の有機質肥料の施用）技術の確立・普及により、年間4～4.5作の周年栽培を実現しつつ全国トップの品質を安定して確保。その結果、ホテル、結婚式場での需要や、高級果販店等での販売につながっている。

また、海外輸出に向け、グローバルGAPの認証取得を開始（平成26年度は16名取得）するなど、所得向上に向けた更なる活動を積極的に実施。

併せて、二酸化炭素排出量低減につながる新技術（ヒートポンプ、木質ボイラー利用等）、省エネ新技術（発泡スチロール等資材の設置による断熱）の導入による地球温暖化防止にも貢献。

## 生産局長賞（有機農業の部）

### 優れた有機栽培技術の確立・普及と 新規有機農業者の育成

## 東 浩一

石川県小松市

### 主な取組

氏は平成4年から有機農業を実施しており、平成12年に有機JAS認証を取得。

堆肥製造や雑草対策に独自の工夫をこらすなど、長年の有機農業の実践により栽培技術に関する知識や経験は非常に豊富。新しく有機農業を志す研修生の受け入れや、地域内外の農業者を集めた勉強会を開催するなど、有機農業者の育成と有機農業技術の普及にも積極的に取り組む。

また、豊かな里山・里湖（さとうみ）の自然文化を保全する小松市では、地域活性化の取組や、安心・安全な農産物の生産を推進しており、氏の長年の有機農業の取組や周辺の有機農業者との連携・普及活動は小松市全体の意識の高揚に寄与。

更に、氏は地域内の約2割の農地を耕作しており、市の「人・農地プラン」にも位置付けられるなど、地域の重要な担い手・リーダーとして活躍。

## 生産局長賞（環境保全型農業の部）

特別栽培米「音羽米」による農家経営の安定化と多様な地域内業者とのネットワーク組織化等による地域活性化

### 音羽米を育てる研究会

（会長：小野 博史）

主な取組

愛知県豊川市

特別栽培米「音羽米」の栽培希望者（39名）が「音羽米を育てる研究会」を平成4年に設立。現在、会員全員（114名）がエコファーマー認定を取得。研究会の取り組み面積は地域内の5割（67ha）を占め、地域の生産者・住民の環境保全型農業に対する意識の向上に寄与。

会員の大半は小規模農家であるが、無農薬無化学肥料栽培を目指し、肥料等の有機JAS認定資材の使用や農薬使用成分回数を慣行から7割減らす取り組みの結果、生協や14の消費者グループと再生可能な価格による取引を実現し、経営が安定化。

更に、栽培理念に賛同する地域内の37業者（食料品、漬け物、食堂等）と「音羽米ネットワーク」を組織し、音羽米を使った加工品の製造・販売の実施や小学校と連携した食農教育や収穫祭等の実施など地域の活性化にも寄与。

## 生産局長賞（有機農業の部）

有機農業の栽培技術の確立・普及と  
女性有機農業者グループと連携した食育活動の展開

### 有限会社 ヘルシーファーム

（代表取締役：西馬 正）

主な取組

兵庫県神戸市

氏は昭和57年から有機農業に取り組み、多品目の野菜の輪作体系やぼかし肥料の開発等の技術を確立。これらの技術は、県の試験場や普及センター等と連携し「有機栽培マニュアル」として取りまとめ、広く技術の普及を推進。また、安定的な出荷を確保しなければならないことから、有機農産物販売では珍しい産地提携型市場流通（小売業者との協定締結による販売）を実施し、全国40箇所の出荷先を確保するなど、安定した経営を確保。

また、氏の妻が代表となり、地域内の女性有機農業者と法人「ヘルシー・ママ・SUN」を立ち上げ、有機農業を通じた消費者への食育活動や交流会等を行うなど、地域の賑わいの創出にも寄与。

併せて、宿泊型体験施設を建設して消費者との交流の場とするとともに、これらを活用して有機農業を志す研修生を受け入れた結果、卒業生が200名にのぼるなど有機農業の後継者育成にも寄与。

## 生産局長賞（有機農業の部）

消費者と生産者が一体となった次世代の育成と  
有機農業を通じた定住・就農の推進による地域活性化

### かたつむりの会

（会長：田邊 真三）

じんせきこうげんちょう

広島県神石高原町

#### 主な取組

昭和48年から中山間地域の生産者と地域の消費者が一体となって有機農産物の生産・契約販売を実施。

また、（株）ローソンファームとの提携により、地域内の就農の場の確保にも寄与。

消費者は、田植えや収穫体験祭などの一過性のイベントへだけでなく、年間を通じて農作業に参加することで、作付量や価格決定の場にも参画。その結果、生産者はもとより、消費者側においても、有機農業・農産物に対する深い理解を有する次世代の育成が実現。

さらに、廃校を利用した有機農業塾で全国から研修生を受け入れ、卒業生は各地で有機農業者として就農。また、町内で定住・就農を希望する卒業生には、農地と住居の斡旋を支援し、新規就農に伴い耕作放棄地の解消が図られるなど中山間地域が抱える問題を解決。

## 生産局長賞（環境保全型農業の部）

柑橘栽培における化学合成肥料・農薬の50%以上の  
低減と半世紀にわたる医福食農連携の実践

### 有限会社 寺本果実園

（代表取締役：寺本 晶尚）

主な取組

熊本県熊本市

平成6年の法人化後、消費者が安全・安心な農産物を選択できることを目的に、エコファーマーや県の特別栽培農産物認証を取得。定期的な土壌診断や耕種的防除等の栽培技術の確立により、柑橘栽培であっても化学合成肥料・化学合成農薬の使用を50%以上低減。

また、糖・酸センサーを導入し、「安全・安心で美味しいミカン」というブランドが確立された結果、取引先である生協との取引が安定し、耕作放棄地の再生（10ha）による規模拡大も実現。

なお、青果には県の特別栽培農産物認証マークを必ず表示する等、環境保全型農業の消費者理解にも寄与。

他方、農園では、50年以上前から障がい者を雇用（現在、7名を常時雇用）。平成16年には、障がい者が安心して継続的に働けるよう全面的な生活支援を行うためNPO法人を設立し、医福食農連携を早くから実践。

## 生産局長賞（環境保全型農業の部）

地域資源（シークワサー・山羊等）を最大活用した循環型農業の実践とブランド化による農家経営の向上

### 沖縄県名護市勝山区

（勝山区長：山城 秀樹）

主な取組

沖縄県名護市

シークワサー園の園地に雑草抑制と山羊の飼育のための下草を育成させ（減農薬・草生栽培）、山羊の糞とシークワサーの搾りかす残渣をたい肥化して園地に還元する地域内資源（シークワサー、山羊等）を最大活用した循環型農業を実践。

また、シークワサーをジュースに加工し、ブランド化して販売するため、平成15年に生産者が農業生産法人有限会社「勝山シークワサー」を立ち上げ。価格決定権の保持や販売先の限定など、戦略的な販売を展開することにより、再生産可能な価格帯での取引を実現した結果、農家の収益性の向上や雇用の創出を実現。

さらに、「シークワサー花香り祭」を開催し、都市住民との交流を図るなど、地域の魅力を内外に発信し地域の観光活性化にも寄与。